

還流人材を活用した高原野菜のノウハウ伝授

- 実施団体：
長野県佐久郡南牧村
国際農業者交流協会(JAEC)
- 対象国・地域
フィリピン国・ベンゲット州
- 現地カウンターパート
フィリピン農業省



- 協力内容：
 - ・土づくり・安全野菜栽培 (SAVERS) 技術指導
 - ・野菜包装販売 (FIVPS) システムの有効性の実証
- 国際農業者交流協会(JAEC) のこれまでの取り組み：
 - ・土づくりを基本とする木炭や木酢液を利用した安全野菜栽培 (SAVERS) 技術の開発・実証
 - ・ベンゲット州内へのSAVERS技術の普及
 - ・安全畜産物生産技術の普及・拡大、販売流通システムの改善
- 南牧村の背景・取り組み：
 - ・冷涼な気候を生かした高原野菜を生産。県下第二位の売上高。
 - ・2014年にベンゲット州ラ・トリダッド町と南牧村は姉妹都市協定を締結。
 - ・これまでに、ベンゲット州の農業技術向上の為、多数の技能実習生を受入。配属地は同州と同じ高原野菜の産地、八ヶ岳地域に限定。NPO八ヶ岳環境保全型農業国際研修協会とも連携。

フィリピン国の課題と成果

- 課題① 農薬や化学肥料の使用と絶え間ない連作による土壌の疲弊、生産性の低下と残留農薬の問題
- 成果① 日本の有機栽培方法である木酢液（炭焼き過程の副産物）や粉炭を利用した土壌改良に成功。
- 課題② 流通ロスの問題。出荷時に比べて傷も多くなり、品質も低下。
- 成果② 日本のコールドチェーン技術を活用。生産者は収入増、消費者は質のいい野菜を安価で入手、中間業者も多くのロスを省き、結果的に利益増。

事業の波及効果



国際交流・国際協力により村が活性化

- ・技能実習生帰国後のフォローアップとして技術支援や同地との交流を深めるなど、南牧村農家が専門家として現地で活躍。国際交流・国際協力により村の活性化にも繋がっている。
- ・プロジェクト業務従事者の横森さんは、ベンゲット州から功績を称えるエバーラスティング賞を受賞。
- ・現在もNGO連携無償「安全野菜生産技術普及活動及び野菜流通販売改善事業（第1年次）」として事業が継続しており、出荷場建設や予冷整備など流通を強化するための協力が行われている。